

# 令和3年矢巾町議会定例会3月会議

## 一般質問議員と質問事項一覧表

受付番号	質問議員	質問事項	答弁者
1	10番 昆 秀一	1. コロナ後を見据えた町のビジョンは	町長・教育長
		2. 広聴広報のあり方等	町 長
		3. 芸術の効用・芸術振興とまちづくり	町長・教育長
		4. 男女共同参画社会の実現、LGBTQの理解への推進	町長・教育長
2	9番 赤丸 秀雄	1. 町長の施政方針演述内容について	町 長
		2. 教育環境などの更なる充実について	教 育 長
		3. 町のデジタル化推進事業について	町 長
3	15番 山崎 道夫	1. 本町における持続可能な農業政策の推進について	町 長
		2. AIを活用した婚活事業支援について	町 長
		3. コロナ禍における失業者等への支援策について	町 長
4	7番 高橋 安子	1. 本町における自殺の現状と対策について	町 長
		2. 児童虐待等の現状と対策について	教 育 長
		3. 生活保護等の状況について	町 長
		4. 普代村との友好都市20周年記念事業について	町 長
5	1番 藤原 信悦	1. コロナウイルス感染症の流行に伴う事業継続等の支援について	町 長
		2. 鳥獣被害対策について	町 長
		3. 産業振興対策について	町 長
6	8番 水本 淳一	1. 矢巾町史の編纂について	町 長
		2. 地域包括ケアシステムの構築について	町 長
		3. 矢巾町の観光ビジョンについて	町 長
7	11番 藤原 梅昭	1. 住民の命と財産を守るまちづくりについて	町 長
		2. 教育環境の充実について	教 育 長
8	3番 小笠原 佳子	1. 乳がん対策について	町 長
		2. 3歳児健康診査における視力検査について	町 長
		3. ファミリー・サポート・センター事業について	教 育 長
		4. 居住支援の強化について	町 長
9	13番 川村 よし子	1. 国民健康保険税の引き下げについて	町 長
		2. 第8期介護保険事業計画について	町 長
		3. 学校給食費無料化と学校給食の民間委託について	教 育 長
10	14番 小川 文子	1. スーパーシティ構想について	町 長
11	4番 谷上 知子	1. 新型コロナウイルスのワクチン接種とPCR検査について	町 長
		2. 若い世代の再就職への支援について	町 長
		3. 高齢者の確定申告について	町 長
計	11名 33件	<b>【一般質問実施日】</b> 令和3年3月5日(金)午前10時 ※受付No.1～4 令和3年3月8日(月)午前10時 ※受付No.5～9 令和3年3月9日(火)午前10時 ※受付No.10～11	町 長 28件 教 育 長 8件

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>1</u>	令和3年2月22日	午前・ <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>10</u> 番	昆 秀 一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) コロナ後を見据えた町のビジョンは (答弁者) 町長、教育長</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、昨年から世界中に多大な影響を与えている。だが、いよいよ今年からワクチン接種も始まり、徐々に収束に向かうことを切に願っている。 それでも、コロナがもたらす状況は少なからず今後影響が残ることも予想され、元のような生活が戻ることはないかもしれない。</p> <p>これからはウイズコロナといわれるように、新型コロナウイルスと共存していかなければならない状況が続いていくことが考えられる。</p> <p>そこで、これからのコロナ後を見据えた町のビジョン等について、以下伺う。</p> <p>① コロナの影響による総合計画や他計画の今後の見直しを考えていく必要があるのではないか。必要があるとすれば、どのような形で見直すのか。</p> <p>② コロナによる財政への影響は、来年度以降行おうとしていた事業の削減や見直しをしていく必要がなかったのか。</p> <p>③ コロナの影響による生活様式の変化はどのようなことが考えられ、それをどう学校で児童・生徒など子どもたちや町全体に周知・定着させていくつもりなのか。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 広聴広報のあり方等 (答 弁 者) 町 長</p> <p>広聴とは、広く人々の意見や要望などを聴くことであり、町として住民のニーズを把握する重要なものである。広報とは、広く人々に知らせることであり、さまざまな施策や計画について説明し、理解と協力を得るためのものである。広聴と広報はどちらも欠かすことのできない町民と町の架け橋となる業務である。</p> <p>現在本町では、その広聴広報について各種の媒体などを利用し、その業務を行ってきている。中でも、インターネットを活用した媒体は急速にその活用が加速している状況であり、今後は必須になるように感じられる。</p> <p>そこで、ネットの活用も含めた広聴広報の町としての考え方や今後の展望等について、以下伺う。</p> <p>① 現在本町が行っている広聴広報業務は、どのような考えのもと行われていて、どこが強みであり、どこが弱みであると捉えているのか。</p> <p>② このコロナ禍での広聴について、住民との懇談など意見聴取をどう行っているのか。</p> <p>③ 先日ある説明会に参加したが、あまりに参加者が少ないことに愕然とした。 このような説明会等の参加者の少なきは何が要因であると考えているのか。それをどのように解決しようとしているのか。</p> <p>④ 今後の広聴広報について、どのような形でインターネットなどの活用を進めていくつもりなのか。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 芸術の効用・芸術振興とまちづくり (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>人間の文化的営みのうち、生活上の実利よりもむしろ美や</p>

	<p>       趣きといった内的価値によって、人の心を動かしてきた諸分野（美術、音楽、文芸、演劇、舞踊など）を、通常芸術と呼んでいる。     </p> <p>       本町では、音楽のまちを宣言しており、音楽振興に力を入れているところである。ただ、音楽が得意でない方もいるし、音楽だけが芸術ではない。ほかの芸術などで力を発揮している方もたくさんいて、そういう方たちのことも町として応援していくべきである。     </p> <p>       芸術は、人の心の栄養になるものであり、QOLの向上にも役立つものであると考えられているところから、芸術の效用・芸術振興とまちづくりについて、以下同う。     </p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 音楽のまちを宣言したことによる効果はどのようにあったのか。また、これからの施策の方向性をどう持っているのか。</li> <li>② 芸術を主に担当する部署が教育委員会から町長部局に移ったことで、どのような効果があったのか。また、反省点はなかったか。</li> <li>③ 町内で芸術活動をされている方々への支援はどのように行われているのか。</li> <li>④ 児童・生徒などが芸術家を志した場合の育成に対して、学校などはどのようにかかわってきているのか。</li> </ol>
<p>質問 4</p>	<p>       （質問事項）男女共同参画社会の実現、LGBTQの理解への推進        （答 弁 者）町長、教育長     </p> <p>       男女共同参画社会とは、平成11年に施行された男女共同参画社会基本法の第2条において、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」となっている。     </p> <p>       また、LGBTQとは、セクシャル・マイノリティーのこと     </p>

であり、いわゆる性的少数者のことである。

この男女共同参画社会の実現とLGBTQの理解への推進を進めることは、今本町でも盛んに話題としているSDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」ことにつながるものでもあるし、17の目標のうちの一つ「ジェンダー平等を実現しよう」にも入れられている。

そこで、本町の男女共同参画社会の実現の推進状況とLGBTQの理解の推進状況等について、以下伺う。

- ① 本町のSOGIハラ対策（SOGI（ソジ）の、SOとはセクシュアルオリエンテーション（性的指向）のことで、好きになる相手の性を指す。GIとはジェンダーアイデンティティで、自分自身を男性と認識するのか女性と認識するのか、あるいはどちらとはっきり決められない、どちらでもないなども含むもので、いわゆる「心の性」と呼ばれている。このSOGIへのハラスメント対策）はどのようなになっているのか。
- ② 同性パートナーシップ証明制度を導入している自治体が増えてきている。この制度を導入することによって、その自治体が性的マイノリティ当事者にとって暮らしやすい地域かどうかの試金石にもなるものである。  
このような制度を導入して、本町のジェンダー平等を表明していくべきであると考えがいかがか。
- ③ 教育の中で、男女共同参画社会とLGBTQをどう扱っていて、現在の児童・生徒の理解度はどのようなになっているのか。また、今後の理解に必要なことは何だと考えるか。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>2</u>	令和3年2月22日	午前・ <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>9</u> 番	赤丸秀雄	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 町長の施政方針演述内容について (答弁者) 町長</p> <p>町長の施政方針演述を傾聴し、以下の項目内容について具体的に伺う。</p> <p>① 市街化区域拡大の取り組みは、現状どのような状況になっているか伺う。特に本町に住宅を確保したいという声を多く聞くが、住宅地開発構想は、どうになっているか伺う。</p> <p>② 老朽化した町営住宅の建て替え、集約化について伺う。全員協議会で建て替え構想の説明を受けましたが、低層階での集約、1回の引っ越し提案など苦心されている状況のようであるが、既存地活用ではなく新たな候補地に新築することなど検討されているか伺う。</p> <p>③ 健康と観光を通じた地域の活性化の取り組みについて伺う。城内山の整備に合わせ、自然を活かしたトレッキングコースの設定など西部地域・南昌山山麓を活用する構想の考えを伺う。また花の植栽に町の花「山ゆり」を一部の地に植えたらよいと思うが、その考えについて伺う。</p> <p>④ 災害時対応で乳幼児・児童等、食物アレルギーや避難所で必要な準備品は整っているか伺う。</p>
質問2	<p>(質問事項) 教育環境などの更なる充実について (答弁者) 教育長</p>

	<p>教育長の教育行政方針を傾聴し、以下の項目内容の具体的取り組みなどについて伺う。</p> <p>① 令和3年度から給付型奨学金制度を創設することのこと。広報やはば2月号に掲載している以外の具体的取り組み内容を伺う。</p> <p>② ICT教育充実の取り組みについて、どの様に活用し授業への効果や運用効率を高める方針であるか伺う。</p> <p>③ 矢巾型コミュニティスクールの運営状況はどのようなものであるか。また、運営委員の方々は導入の主旨を理解し、児童・学校・自治会などと連携した行動を行っているか伺う。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 町のデジタル化推進事業について (答弁者) 町長</p> <p>国において将来を見据えた施策の柱として、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する方針が示されました。町でもDX担当部署を設け、行政のデジタル化による町民サービス向上に努めるとお話しされていまして、以下の項目について伺う。</p> <p>① 高速無線通信で結ぶWi-Fiネットワーク（NW）網を構築中のようなのであるが、どのような利用のNWを考えているか伺う。またNW概要をお示し願いたい。</p> <p>② マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようだが、利用時期やマイナンバーカードを申請していない方の現用利用方法との違いを伺う。 また近々にシステムを活用した事業構想は何かを伺う。</p> <p>③ DX担当部署を設けることの具現化は、いつを予定しているか伺う。またスーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に向けた取り組み状況と特区申請前の議会説明を行う予定について伺う。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 3	令和3年2月22日	午前・午後 9 時58分
議席番号15番	山崎道夫	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 本町における持続可能な農業政策の推進について (答弁者) 町長</p> <p>昨年11月に5年毎に調査している農林業センサスが公表されたが、それによると岩手県における農業の個人経営体は、この5年間で1万1千戸余り減少し、その減少率は実に25.1%となり、予想をかなり上回る速度で減少し続けていることが明かになった。本町においても農家戸数は年々減少しており、高齢化が確実に進行しているのが現状である。このような中、わずかな希望は法人化している経営体が少しずつ増えてきていることだと思うが、法人の従事者も高齢化してきており、後継者育成が課題として挙げられている。こうした状況の中にあって、わずかな光として感じるのは、コロナ禍によって食料の大切さや農業の大切さ、食料自給率を高める取り組みが重要であることが、消費者を始め多くの人々の間で意識されてきたことである。つまり食料を6割以上も海外に依存している日本の現状を危ぶむ人達が少しずつではあるが、増えてきているということである。</p> <p>しかし、農業従事者が減少し続けている状況の中で、政府が目指している2030年までに自給率を45%まで引き上げるには、かなり厳しいと誰もが感じている通りである。そうした厳しさの中にあって食料生産に意欲を持って取り組んでいる農業者を支え、持続可能な農業への道筋を示すための政策を打ち出すのが行政の役割であると思う。</p>



そのような観点から以下について伺う。

- ① 2020年産の米価が下落しているとの情報が伝えられているが、本町の稲作農家への影響はどの程度になると捉えているのか。また、本町に於ける2021年産の主食用米の作付面積は、県が示した目安に対してどのような状況で推移しているのか明らかにされたい。
- ② 農家や農業法人の所得を増やすための町の政策が米づくりに関しては、極めて不十分といわざるを得ない。生産の目安を上回って作付けをし、需給均衡水準を上回る生産量になった場合、結果として生産者米価の下落に結びついてしまうことが実証された。したがって作付け転換の調整が重要であると思うが、農家に対しどのように調整が行われたのか明らかにされたい。また、転作の柱である飼料用米や大豆、小麦などの作付面積は増加しているのか明らかにされたい。
- ③ 本町に於ける持続可能な農業政策として、これまで高収益作物への転換が示されてきたが、思うように進んでいないのが実態である。今後、高齢化等により労働力不足が想定される中、比較的手がかからなく作りやすい作物、例えば小型のカボチャやタマネギ、サツマイモなどを推奨するなど、実効性のある取り組みを考えるべきと思うが、見解を示されたい。
- ④ 政府が意欲を持って進めている輸出力の強化策として、本県はリンゴと米が県全域を対象に輸出産地に選定されたが、今後、農水省は輸出産地に於ける「輸出事業計画」を作成するとしている。  
稲作農家の米づくり意欲を減退させないためにも、本町として輸出米への取り組みについて、JAにも強く働きかけて積極的に情報発信等を行ない、セミナーなどの開催を企画し、意欲的に取り組むべきと考えるが見解を伺う。
- ⑤ 20年度第3次補正予算の中で、水田リノベーション事業として、本町が取り組もうとしている事業は何があるのか明らかにされたい。
- ⑥ 生産者米価の下落補填として稲作農家に対し、出荷米の

	<p>検査料（30kg1袋当たり25円）と入庫料（1袋当たり95.6円）を補助し、支援するべきと考えるがどうか。</p>
<p>質問2</p>	<p>（質問事項）AIを活用した婚活事業支援について （答弁者）町長</p> <p>近年、人口知能（AI）が大変幅広い分野で活用されているが、身近なところでは農作物の病虫害診断や新卒者の採用選考などにも、AIを導入し活用する動きが広がっている。そうした中、内閣府はAIやビッグデータを使った自治体の婚活事業支援に本腰を入れることが報道された。それによると、AIが膨大な情報を分析して「相性の良い人」を提案することで、お見合い実施率が高まりその結果、成婚率も高まるとのことである。</p> <p>既に民間ではAI婚活が広がっており、システムは結婚支援サービスを運営する企業が開発し、全国では愛媛県や埼玉県など10県の自治体で導入しているとのことである。そうしたことから内閣府は2021年度から自治体への補助を拡充し、システム導入を促すとしており、未婚化、晩婚化が少子化の要因とされている中、結婚を希望する人を後押しするための婚活事業支援として、本町でも導入に向けて取り組むべきと考えるがどうか。</p>
<p>質問3</p>	<p>（質問事項）コロナ禍における失業者等への支援策について （答弁者）町長</p> <p>収束が見えないコロナ禍の中で、新型コロナウイルスの影響を受けて失業し、生活難で苦境に立たされている市民や町民、客足が落ち込んで売り上げが激減している宿泊・飲食業者に対し、県内のそれぞれの自治体は独自に支援事業を実施している。その中で、花巻市は事業主の都合で失業した市民には10万円の見舞金を、就労の場を失った市民を正規雇用した事業主には奨励金を1人当たり50万円を給付、八幡平</p>

市は売り上げ減の宿泊・飲食業者に20万円を支給するなどの支援事業を行っている。本町も同様の事例に対し、見舞金や奨励金、支援金を支給し支援する考えはないか伺う。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>4</u>	令和3年2月22日	午前・ <del>午後</del> 10時20分
議席番号 <u>7</u> 番	高橋安子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 本町における自殺の現状と対策について (答弁者) 町長</p> <p>全国的に女性の自殺が増加しているとのこと。中には子供を道連れに自殺する例も多い。近隣の町でも昨年12月、母親が二人の子どもを道連れに自殺した。最近では、奈良県で障害のある10歳の娘と心中しようとしたが、死にきれず自分だけが生き残った事案がある。</p> <p>自殺者は、平成15年をピークに減少傾向にあるが、岩手県では毎年200人余りが、全国では2万人以上の方が自殺で亡くなっている現状である。原因は健康問題や生活問題等多様多様であり、年代別にみると40代から50代の働き盛りが多いとの統計が出ている。</p> <p>このことから以下伺う。</p> <p>① 本町ではここ数年、自殺者はどのくらいあるか。 ② 年代別・男女別及び原因はどのようなものが多いか。 ③ コロナ禍において、生活相談はどのくらい増加しているのか。 ④ 本町では、ゲートキーパー等を養成し、自殺防止対策を実施しているが、今後、ゲートキーパー以外の取り組みも考えているのか。</p>

質問 2

(質問事項) 児童虐待等の現状と対策について  
(答 弁 者) 教育長

2018年3月、東京で5歳の女児が、小学校入学目前に義理の父親からの虐待で亡くなった。一昨年は千葉県で小学4年生の女児が実父からの虐待で死亡した。本県でも、親からの悲惨な虐待事件はとどまることがない。特に昨年からコロナの影響もあり、児童虐待の通告が統計のある2004年以降初めて10万人を超えたとのこと。警察が児童相談所に通告した中には、暴力による身体的虐待、両親のDVによる心理的なものや育児放棄、そしてあってはならない実父などからの性的虐待もあるとのこと。

このことから以下伺う。

- ① 本町において、児童虐待と見られる相談はどのくらいあるか。また、誰からの通報が多いのか。コロナ禍において、相談は増加しているのか。
- ② 今までに、本町において性的虐待についての相談はあるのか。
- ③ 「ヤングケアラー」といわれるような家族の介護をしなければならない児童、生徒の実態把握は進んでいるのか。
- ④ 保育園や学校において、児童虐待等見極めについて、先生方の情報共有はどのようにしているか。

質問 3

(質問事項) 生活保護等の状況について  
(答 弁 者) 町 長

重度障害の娘と母子二人暮らしで、電気を止められる生活をしている家族がいる。彼女は数十年前に夫に先立たれ、養護施設に通う娘を送迎しながら、収入は娘の障害者年金で生活している状況。家や農地があり、生活保護の申請には多くの壁があることや兄弟に迷惑をかけたくないなどの理由から生活保護の申請をためらっている現状である。

	<p>このことから以下伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在、本町において生活保護を受けている家庭はどの位あるか。</li> <li>② 昨年からコロナ禍により生活保護の申請は増加しているのか。</li> <li>③ 本町では、フードポストを設置しているが、どのくらいの食糧が集まっているか。</li> <li>④ コロナ終息まで、生活困窮者を対象に食料支援等町独自のフードポストを設置する考えはないか。</li> </ul>
<p>質問4</p>	<p>(質問事項) 普代村との友好都市20周年記念事業について (答弁者) 町長</p> <p>普代村と友好都市宣言をしたのは、2000年(平成12年)とのこと。昨年は20周年の記念すべき年であったが、コロナ禍の影響により普代村との交流がなかなかできない状況であったことから、以下伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 普代村との交流は、どのような経緯で始まったのか。</li> <li>② 今までにどのような交流が行われてきたか。</li> <li>③ 10周年等節目の事業は実施しているか。</li> <li>④ 20周年記念事業の計画はあるか。</li> <li>⑤ これからどのような交流を考えているか。</li> </ul>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 5	令和3年2月22日	午前・ <del>午後</del> 10時36分
議席番号 1 番	藤原信悦	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) コロナウイルス感染症の流行に伴う事業継続等の支援について (答弁者) 町長</p> <p>2月よりワクチン接種が開始され、コロナウイルス感染症の流行に収束の道筋が見えてきました。</p> <p>しかし、1年以上に及ぶ感染流行は経済や雇用、生活環境に大きな負の影響を及ぼしており、流行以前の状態に回復するまでには相当な時間を要するものと思われれます。</p> <p>政府は1月に第3次補正予算を可決、成立させており、令和3年度予算と合わせ「15カ月予算」と長期間にわたる感染の収束と経済回復の取り組みを加速させようとしています。</p> <p>以上の状況をふまえ、今後の支援について以下の点についてお考えを伺います。</p> <p>① 第3次補正予算の内容や当町に割り当てられる金額はどの程度になるか伺います。</p> <p>② 商工会に町内事業者の状況を伺った際、今後の事業者の息切れが懸念されること。また、今の支援制度では業種によって「家賃補助」の対象外となり、問題となっていると聞いておりますが、町独自にこれまで行なってきた支援策について、今後どのようにしようとお考えか伺います。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 鳥獣被害対策について (答弁者) 町 長</p> <p>近年、町内においても鳥獣被害が発生しており、特に西部地域に多いと聞いております。</p> <p>町内の被害額(件数)は直近5カ年で、平成27年1,417千円(9件)、平成28年571千円(17件)、平成29年1,487千円(19件)、平成30年3,747千円(25件)、令和元年5,181千円(21件)と産業観光課よりご報告をいただいております。</p> <p>この状況での問題点は、金額・件数が増加傾向にあるということです。場合によっては、被害が人身に及ぶことも想定されます。また、鳥獣別ではいずれの年も、クマによる被害が一番多くなっていますので、なおさらと言えます。</p> <p>対策として、個別に電気柵等を設置している農家もありますが、効果は万全なものではありません。クマやイノシシも危険を避ける方法を経験で学び、難なく農地等に侵入するケースもあると聞きます。</p> <p>しかし、電気柵等の効果性を疑い、何の対策も打たなければ被害はさらに増加するばかりです。</p> <p>以上のことから、以下についてお考えを伺います。</p> <p>① 被害発生地域で農家が行う被害対策への支援について町はどのようにお考えか伺います。</p> <p>② 町が重点施策として取り組む西部地域の観光開発を進めるにあたり、観光客の身の安全を守るためにも鳥獣被害対策は避けられないと思いますがお考えを伺います。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 産業振興対策について (答弁者) 町 長</p> <p>当町(村)が合併した昭和30年の人口は13,832人でしたが、令和3年1月1日現在では27,133人と</p>



1. 96倍に増加し、町村では大きな町の一つとなりました。  
一方、人口増加に比べ、製造業の出荷額は平成10年の約422億円をピークにそれ以降低迷しています。また、卸・小売業の販売額も平成9年の3,638億円がピークで、未だ回復していません。

人口が増加すれば消費は拡大し、また、人材確保の面で好条件となるので、新たな企業の進出や既存事業の規模拡大による新たな雇用創出があるのが一般的な発展のあり方と考えます。

しかし、20年以上も産業が低迷している状態は、発展しているとは言えないと思います。このままでは、持続可能な商工業の発展はよりむずかしくなると考えます。

このことから、以下についてお考えを伺います。

- ① これまでの産業振興施策が成果を出すに至らなかった原因は何にあったとお考えか伺います。
- ② 町長の令和3年度施政方針では、「中小企業振興基本条例」や「中小企業振興計画」等を策定し、持続可能な活力ある地域経済の振興を図るとありますが、過去の振興策との違いは何であり、どのような地域経済の発展をお考えか伺います。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>6</u>	令和3年2月22日	<del>午前</del> ・午後 1時05分
議席番号 <u>8</u> 番	水本 淳一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 矢巾町史の編纂について (答弁者) 町長</p> <p>矢巾町は昭和30年3月1日、煙山村、徳田村、不動村が合併し矢巾村が誕生、その後昭和41年5月1日、町制が施行された。</p> <p>令和7年は、3村合併から70周年を迎えるにあたり、町では「新編矢巾町史現代編」(仮称)を編纂するということから以下について伺う。</p> <p>① 「新編矢巾町史現代編」(仮称)の編纂にあたりどのような町史を編纂するのか、方針等全般の考えについて伺う。</p> <p>② 不動村民歌と徳田村の歌が昭和60年発行の矢巾町史下巻に掲載されているが、作詞者、作曲者、旋律(メロディー)等の把握状況について伺う。</p> <p>③ 煙山村民歌は発見できず掲載できなかったようだが、再調査を行ってはどうか伺う。</p> <p>④ 矢巾町のスポーツ史、音楽史、郷土芸能史等の編纂状況について伺う。</p> <p>⑤ 太田行政区では「みどりのふるさと開発事業」の一環で「太田の歴史」を昭和55年に発行しているが、この「みどりのふるさと開発事業」の内容について伺う。</p> <p>また、この事業を利用して地域の歴史編纂等を行った団体はどの程度あったのか伺う。</p>

	<p>⑥ 自治会史作成等、地域の歴史編纂に対する支援の考えについて伺う。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 地域包括ケアシステムの構築について (答弁者) 町長</p> <p>町では、団塊の世代が75歳以上になり介護が必要な高齢者が急増する2025年及び高齢者人口がピークを迎える2040年を見据えた地域包括ケアシステムの実現に向け、その構築を図っていることから以下について伺う。</p> <p>① 昨年からのコロナ禍により、介護サービスの利用控えなどで会話の減少による認知機能の低下、運動不足によるフレイルの進行などが懸念されている。町では、介護予防・フレイル予防のために令和2年度から後期高齢者に対し、医療機関や町保健師等から通いの場への参加の働きかけを、通いの場では定期的にフレイルチェックや保健指導を始めたが、コロナ禍による計画への影響と町内高齢者の健康への影響はどうか伺う。</p> <p>② 昨年10月、オレンジボランティアの拠点となる「えんじょいセンター」が開所したが、その利用状況はどうか伺う。</p> <p>③ 矢巾町における高齢者の単身世帯数及び夫婦世帯数について伺う。また、配食サービスや緊急通報装置の利用状況はどうか伺う。</p> <p>④ 本町における孤独死・孤立死のここ数年の発生状況について伺う。</p> <p>⑤ ICTタグを利用した地域住民参加型の見守りサービスの実施状況について伺う。</p> <p>⑥ 昨年度において保健福祉サポーター養成研修として「わが町、ほけんふくしゼミナール」を受講した14名の方に対する活動支援と新たな担い手育成の取り組み状況について。また、担い手の確保における地域の企業や施設等の協力状況について伺う。</p> <p>⑦ 第7期介護保険期事業計画の検証による課題と第8期の</p>

	重点施策について伺う。
質問3	<p>(質問事項) 矢巾町の観光ビジョンについて (答弁者) 町長</p> <p>産業建設常任委員会は、「矢巾町の観光ビジョン」の策定状況について担当課の方から説明を受け、その後1月には、「矢巾町観光振興ビジョン」(案)として議会に示された。これまで観光に特化したビジョンがなく今回の策定に至ったことで、10年先を見据えた目標が定まることから今後の矢巾町観光の発展を期待し、以下について伺う。</p> <p>① 「史跡徳丹城跡」の整備については、令和2年度から5ヶ年で東西道路の復元などを行い、その後の整備計画も検討するとしている。</p> <p>盛岡市において盛岡城遺構復元計画が進んでいることが、先月12日の岩手日報に掲載された。市民からは「石垣だけで寂しい。歴史があるものを立てる。それによって集客する。それを考えないと。」とか、あるいは県外から来た人からは「昔はこうだったというのが建つのは良いこと。そしたら見ますよ。」などの意見が出ている。「えさし藤原の郷」は史跡ではないが、園内に平安・奈良時代の政庁や城郭、城門、庭園などが数多く造られており、大河ドラマなどのロケ地として人気を集めている。「史跡徳丹城」においても外郭正門や政庁などの復元が必要と考えるが、町の考えについて伺う。</p> <p>② 郷土芸能保存事業においては、現在14団体が保存会に登録し伝承活動を実施しているが、少子化や若者の流出により後継者不足などで継承が危ぶまれている。最近の後継者育成状況と動画等による記録の保存状況について伺う。</p> <p>③ やまゆりプロジェクトの今後の計画について伺う。また株・種の配布や技術指導の考えはどうか伺う。</p> <p>④ 南昌山自然公園のPR事業については、観光資源それぞれの楽しみ方を相対的に伝えるための体験や散策イベン</p>

トの実施や個人で楽しむルート提案などについて情報媒体を使って発信して方法を伝えるとしているが、具体的な内容を伺う。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 7	令和3年2月24日	午前・ <del>午後</del> 9時14分
議席番号11番	藤原梅昭	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 住民の命と財産を守るまちづくりについて (答弁者) 町長</p> <p>1・17阪神淡路大震災から26年、3・11東日本大震災から10年、8・9ゲリラ豪雨から8年になるうとしている中で2月13日深夜福島県沖にてM7.3の地震が発生しました。</p> <p>東日本大震災から10年になる今も余震は続いている。先日の福島沖地震は、地域によっては東日本大震災よりも激しかったと言われており、東北新幹線も10日間に渡って運休、大規模停電、土砂崩れ、塀・家屋の倒壊等もあった。更にその3日後には爆弾低気圧が襲い、広範囲で暴風雪に見舞われ各地で被害が発生し、また今年の冬は大雪に見舞われ、交通障害・ビニールハウスの倒壊等雪害も発生している。</p> <p>「住民の命と財産を守るのは行政の最大の責務」の観点から、各種災害に対する対応状況について以下伺う。</p> <p>① 東日本大震災から10年経ち、いまだ復旧道半ばであるが、被災者及び被災地への今後の支援に対する考えを伺う。</p> <p>② 当町を流れる1級5河川(見前川含)は順次改修されているが、現在までの進捗状況と今後の改修計画を伺う。</p> <p>③ 「矢巾町地域防災計画」が立てられており、昨年12月に改訂となっているが、どこが改訂となっているのか伺う。</p> <p>④ 一昨年52名、昨年17名、計69名の防災士が誕生しているが、活用の為の講習会や訓練はいつ頃どのように考えて</p>

	<p>いるか。また、今後の育成計画を伺う。</p> <p>⑤ 減少傾向にある消防団員確保のための待遇改善等が言われているが、どのような対応策を考えているか伺う。</p> <p>⑥ 昨年末から頻繁に町内で火災が発生しているが、火災原因は何か。今後の対策をどう考えているのか伺う。</p> <p>⑦ 自然災害は地球温暖化が大きな要因であり、国も2050年までにCO2実質”0”宣言し、岩手県もようやく「いわて気候非常事態宣言」を発しました。 当町は昨年9月一足先に県内3番目に発しましたが、町民の協力を得るためにも、数値を踏まえた分かり易い具体的なスケジュールを示す必要と思うが考えを伺う。</p> <p>⑧ コロナ禍に於いて、ワクチンに対する期待は非常に高いが、何時・何処で・どのように実施されるのか伺う。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 教育環境の充実について (答 弁 者) 教育長</p> <p>コロナ禍で、科学的根拠が十分に示されないまま政治判断で緊急事態宣言が発せられ、一斉休業となった教育現場は混乱をもたらし、子育て家庭は大変な状況となっている中で、新しい生活様式に対する考え方を以下伺う。</p> <p>① コロナ禍の影響もあり、昨年小中高生の自死が479人(前年比140人増)に上り、統計のある1980年以降最多となった。文科省は、子供たちにスマートフォンが普及している現状を踏まえ、SNSを活用した相談対応など悩みを受け止める仕組み作りに力を入れているが、本町の考えを伺う。</p> <p>② 政府は、40年振りに2025年度までに公立小学校の人数を段階的に35人にする閣議決定しましたが、既に岩手県は独自に中学3年まで35人学級に取り組んでいる事は素晴らしい事と思います。 しかし、世界OECD(経済協力開発機構)加盟国37か国中の中学校平均は23人、日本は32人で最下位です。 30人を過ぎると実務処理が増え、目が行き届かなくなる</p>

との現場の先生方の意見ですが、教員の多忙解消や学力向上、教室内の密を避けるコロナ対応のためにも、更に踏み込んで県と連携の上、まずは30人以下学級を早急に進めるべきと思うが考えを伺う。

- ③ 学校給食運営に於いて、給食費のPTA集金から口座振替に、調理等一部業務の委託等改革が進められているが、子育て家庭・ひとり親家庭への支援のためには、以前より提案している給食費無料化への検討状況を伺う。
- ④ 今年度からのスクールバス運行は、雪の多い今冬としては利用者も多く、子どもにも親にも大いに感謝されていますが、利用状況と今後の考えを伺いたい。
- ⑤ 多様性が重視される時代で、制服を着たがらない、スカート履きたがらない、生まれつきの茶髪を黒く染める等、校則に縛られて多様性が尊重されない現状がある。校則のために無理に強要されたり、いじめにあったり、また先生も監視・対応等時間がとられているという報告があるが、校則の見直しについての本町の考えを伺う。
- ⑥ 令和2年度学校施設工事要望箇所当初72か所、追加で22か所もあり、一部しか対応できていませんでしたが、その後の対応状況及び今後の考えを伺う。



# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 8	令和3年2月24日	午前・午後 9 時35分
議席番号 3 番	小笠原 佳 子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 乳がん対策について (答弁者) 町 長</p> <p>毎年3月1日から8日までは、国が定める女性の健康週間です。この健康週間は、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会が女性の生涯にわたる健康を支援することを目指し、2005年から提唱しています。2007年にまとめられた政府の新健康フロンティア戦略の柱の一つに女性の健康力が掲げられ、対策が前進しています。</p> <p>私が今回取り上げました女性特有のがんである乳がんは、女性の9人に1人が一生のうちにかかると言われ、受診率向上のため、2009年から対象年齢の検診に無料クーポンが配布され、配布された後の受診率は、全国で岩手県が一番伸びたと聞いております。</p> <p>本町では、受診につきましては、国の基準に基づき40歳からを対象に、検診が行われています、そこで以下伺います。</p> <p>① 乳がん検診の受診状況について、令和元年度と令和2年度における町内の受診対象者数と受診者数、及び受診率について伺います。</p> <p>② 健康診断の会場を変更すると聞いておりますが、次年度の乳がん検診について伺います。</p> <p>③ 検診年齢前の若い方への普及啓発の取組を伺います。</p> <p>④ 乳がんの早期発見には、日頃から自分で行う自己検診が、重要と考えます、当町の取組みについて伺います。</p>

	<p>⑤ 乳がんグローブの配布についてのお考えを伺います。</p> <p>⑥ がん患者に対する支援について伺います。</p> <p>⑦ がん患者に対する補正下着、医療用ウィッグ購入助成の導入について、お考えを伺います。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 3歳児健康診査における視力検査について (答 弁 者) 町 長</p> <p>3歳児健康診査において、強い屈折異常や斜視が見逃された場合に治療が遅れ、十分な視力が得られないとの指摘もあり、早期発見・早期治療が重要となります。そこで以下伺います。</p> <p>① 本町における3歳児健康診査での視力検査方法の現状と課題を伺います。</p> <p>② 視力検査を実施できなかった受診児への対応はどうされているか伺います。</p> <p>③ 令和元年度において、眼科医での精密検査を勧奨した子ども数の数を伺います。</p> <p>④ 保護者への視力検査の重要性の周知啓発はどのようにされているのか伺います。</p> <p>⑤ 3歳児健康診査の視力検査において、本町においてスポットビジョンスクリーナーを導入する考えを伺います。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) ファミリー・サポート・センター事業について (答 弁 者) 教育長</p> <p>本年1月より地域で子育ての援助活動を始めています。そこで以下伺います。</p> <p>① ファミリーサポートの概要と、利用する為の手続きの流れについて伺います。</p> <p>② ファミリーサポートを始めての現状と課題について伺</p>

	<p>います。</p> <p>③ 現在までの会員登録数を伺います。</p> <p>④ 現在までの利用者数を伺います。</p> <p>⑤ 利用会員からの声はどのようなものがあったか。</p> <p>⑥ ファミリーサポートにおいて、病後児保育に取り組むお考えを伺います。</p>
<p>質問 4</p>	<p>(質問事項) 居住支援の強化について (答 弁 者) 町 長</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、家賃の支払いに悩む人がおられ、住まいと暮らしの安定を確保する居住支援の強化が課題であります。そこで以下伺います。</p> <p>① 住居確保給付金の申請並びに支給決定件数。また、前年と比べて増えているのか伺います。</p> <p>② 住宅確保給付金について、新型コロナウイルス感染症の流行前後においてどのように推移しているか伺います。</p> <p>③ 新たな住宅セーフティネット制度の趣旨に沿った住宅確保要配慮者の居住の安定確保に向けた当町での取組の状況について伺います。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 9	令和3年2月24日	午前・ <del>午後</del> 10時55分
議席番号13番	川村よし子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 国民健康保険税の引き下げについて (答弁者) 町長</p> <p>コロナ禍の中で中小企業の雇用が不安視されている。特にひとり親の収入減少等の不安は尽きないと考えることから、以下2点伺います。</p> <p>① コロナ禍の中で収入減少等にあることから、子どもの均等割を廃止する時期ではないかと考えるがどうか。 ② 国民健康保険加入者は、協会けんぽ等の加入者より負担が大きいことについてどのように考えているのか。</p>
質問2	<p>(質問事項) 第8期介護保険事業計画について (答弁者) 町長</p> <p>2021年度から、介護保険事業計画は第8期に入ります。第8期事業計画の内容について伺います。</p> <p>① 65歳以上の高齢の第1号被保険者の保険料基準額は、第1期は3200円、その後は事業計画の度に値上げしてきました。町民からは「実際支給になる年金が年々減額され、生活していくのが大変だ」との声があるがどのように考えているか。 ② 全員協議会では保険料の据え置き案が示された。基金を</p>

	<p>活用し、基準額を引き下げることはいか。</p> <p>③ この20年間でヘルパーの仕事が大きく変化してきている。2005年から介護給付費抑制を狙った「ローカルルール」が持ち込まれ、電球の交換も庭の掃除も保険請求ができなくなり、ヘルパーが任意でサービスしているとの声を聞くが把握しているか。</p> <p>④ 介護予防対策は、えんじょいセンターでの介護予防体操等必要不可欠であるが、日常生活においても各種介護予防策が必要です。高齢者が散歩習慣を身に着けるための環境整備が必要と考えるがどうか。</p> <p>⑤ 一人暮らしや高齢者のみの在宅高齢世帯が多くなり、包括的医療介護ケアシステムが開始されているが、夜間の対応はどのように計画・実施されているか。</p> <p>⑥ 介護職員の処遇改善を図りケア労働者を希望する人材育成計画や方針はあるのか。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 学校給食費無料化と学校給食の民間委託について</p> <p>(答 弁 者) 教育長</p> <p>教育行政方針では、令和4年度からの調理等の業務委託に向けて対応する方針とのことから、以下4点伺います。</p> <p>① 昨年5月から行われている公会計による給食費の収納状況はどうか。先の全員協議会での説明では第一期の未納者が4名いるとのことだが、要保護・準要保護者の就学援助制度を利用して、給食費支払いできない状況かどうか。</p> <p>② 施設の管理について、指定管理者制度で行おうとしているのか。今後の公募日程や保護者への住民説明会等の計画はどうか。</p> <p>③ 現在28種類のアレルギー食に対応しているが、委託後はアレルギー食への対応についてはどのように進めるのか。</p>

④ 共同調理場が平成16年に開所されてから、地産地消率は低下してきている。地元の農家の声を聴き児童生徒の声を農家に届け、地産地消率を高める取り組みはどう考えるか。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 10	令和3年2月24日	午前・ <del>午後</del> 11時40分
議席番号14番	小川文子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) スーパーシティ構想について (答弁者) 町長</p> <p>町長は、施政方針の中でスーパーシティ型国家戦略特区の指定を目指す立場を明らかにした。また、応募に先立ち町ホームページで本町と連携して「人生100年時代を健幸に暮らせる町づくり」を実現するために政策立案、社会課題を解決して構想実現に共に取り組むパートナーとして連携候補事業者の募集を開始した。メ切は3月3日、4日から7日に審査して事業者を選定し、3月26日までに内閣府に応募するとした。</p> <p>解決したい地域課題として、1) 中心市街地と周辺地域の格差解消と周辺地域の産業の持続可能性確保、2) コミュニティの崩壊危機、3) 健康意識を高めるしかけの導入をあげている。</p> <p>具体的なテーマとして1) ヘルスケア、2) 医療分野、3) 防災・救急分野、4) 介護分野、5) 移動配達、6) 産業、7) 新たな日常実現分野を示すとともに、上記以外の新たな課題の提示、取り組みも歓迎するとしている。</p> <p>以上のことから、また、12月議会以来、一転して取り組むとしたオンライン診療、キャッシュレス等について伺う。</p> <p>① 課題解決の中心市街地と周辺地域の格差は、町が6次総で107億円の駅前開発に取り組み、市街地に大きな投資をしたことが周辺地域の生活道路等に予算が回らなかった</p>

ことの要因と考える。その6次総の検証・分析を怠ってきたことが課題解決を阻んできた理由の一つと考える。スーパーシティで解決策を見出そうとする前に6次総の検証を行政の責任として行うべきではないか。むしろ、それを行うことで解決策が見えてくるのではないか。町が考える未来から見た町づくりの欠点は、過去の検証・歴史に学ぶ視点に欠けていることにあると考えるが所見を伺う。

- ② 事業者の提案を受けた後、応募する前に議会や町民に丁寧な特に説明の機会を設けるべきと考えるがその考えは。
- ③ 個人情報の取り扱いが問題視される場所であるが、個人情報保護法の制定と運用に長年尽力されてきた弁護士の三宅弘氏は特に2つの問題を指摘している。1つは「日本のスーパーシティでは、必要な時に必要なデータを迅速に連携・共有するとして、地域住民、政府や自治体、企業などから同意を得る形で個人情報をすべて国家戦略特区データ連携基盤整備事業に集め、自動運転とか各種のサービスをできるようにしています。この連携基盤事業が住民や国・自治体などの全データを集中管理することにより個人情報提供の規制ができず、プライバシーが保護されなくなる仕組みになっています。」としていて、これまでの説明、すなわちデータはそれぞれが安全に管理するという答弁と違っているのではないか。
- ④ 個人情報保護法も第8条で利用及び提供の制限を定めていますが、相当な理由があるものは他の行政機関に個人情報を提供できることになっています。スーパーシティはまさに相当な理由にあたり、捜査関係の情報は警察に流れることになりかねません。ここが監視社会につながる一番の理由としていることに関し、どのように考えるか。
- ⑤ パソコンを持たない人のオンライン診療はどう考えているのか。
- ⑥ スマートフォンを持たない人のキャッシュレスはどう考えているのか。
- ⑦ 国家戦略特区からの離脱の仕組みはどうなっているか。



# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 11	令和3年2月24日	午前・ <del>午後</del> 11時57分
議席番号 4番	谷上知子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 新型コロナウイルスのワクチン接種とPCR検査について (答弁者) 町長</p> <p>新型コロナの予防接種が始まっています。数や職種による優先順位が定まっていますが、矢巾町独自の予防接種やPCR検査の対策について伺います。</p> <p>① 本町で働く保育・教育関係者へのできるだけ早い予防接種の考えはないか伺います。</p> <p>② 本町のボランティア団体に所属する方々、特に高齢者や障害のある方、子育て支援で活動するボランティアへの優先的な予防接種並びに定期的なPCR検査についての考えを伺います。</p>
質問2	<p>(質問事項) 若い世代の再就職への支援について (答弁者) 町長</p> <p>非正規で働く若い世代並びに子育て世代への技術取得講習の支援について伺います。</p> <p>① 運輸や建設、農業等でも義務づけられている特殊免許の資格取得等に対する支援の考えを伺います。</p> <p>② 簿記等をパソコンで操作できるよう講習会を開催して</p>

	<p>はどうか。</p> <p>③ 不足しがちな介護職や医療従事者の資格取得への支援について伺います。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 高齢者の確定申告について (答弁者) 町長</p> <p>毎年行っている確定申告ではありますが、高齢となり難しくなっている人もいます。e-Taxによる方法もあるが、現在行われている本町の確定申告相談並びに申告方法を継続すべきと考えるが、このことについて以下伺います。</p> <p>① 農業や不動産の小規模な経営世帯の税金申告相談について現在の方法で継続するか伺います。</p> <p>② 矢巾町庁舎に設定される税金の申告会場で継続するか伺います。</p>